

現行ガイドライン（ニホンジカ）からの変更概要

1. 新ガイドラインの「I ガイドライン改定の背景と目的」

- ニホンジカ管理に関する課題については、ニホンジカ保護及び管理に関する検討会での議論を踏まえて、以下の3点の課題を記載した。
 - ・ニホンジカ管理の目的の多様化や政策体系に関する課題
 - ・森林地域等での現状把握や対策不足に関する課題
 - ・計画的な捕獲に関する課題

2. 新ガイドラインの「II 本ガイドラインのポイント」について

1 ニホンジカ管理政策体系の構造と設計

- 「ニホンジカ管理の目的の多様化や政策体系に関する課題」への対応として位置づけ記載した。
- ニホンジカ管理政策を設計する際の、基本的な政策体系の構造の理解の必要性、政策体系を設計する際の考え方として、最終目標の設定と、最終目標達成に向けた論理的な筋道の設計を、ロジックモデルやバックキャスティングの考え方を踏まえて記載した。
- 予算や人員が限られており、目標達成までの現実的な筋道を立てにくい状況が発生している場合、限られた資源で多くの課題を解決するために、現状からいつ、どこで、どの程度の資源の投入が可能で、どの程度の活動ができるかといった、対策を優先する順位を検討する必要性と、その考え方について、政策体系に対応させて記載した。
- ニホンジカ管理の問題は、鳥獣行政の担当部署だけでは解決できないことが多いため、行政の縦割りを超えた調整や体制構築の必要性について記載した。
- 政策を評価するためのモニタリング調査設計の必要性、モニタリング設計の考え方としての目標に対応した指標、指標に対応した調査手法の選定、調査の頻度と調査地域や調査密度といった時空間スケールの観点を記載した。

2 植生被害・生態系への影響低減に向けた対策

- 「森林地域等での現状把握や対策不足に関する課題」への対応として位置づけ記載した。
- ニホンジカによる植生や生態系への影響は、人間社会とのつながりを感じにくく、対策の必要性の説明が難しいことから、ニホンジカの増加や生息域の拡大が生態系へ及ぼす影響、さらには、人間生活に及ぼす被害の概要について記載した。
- 植生被害・生態系への影響低減を目標とした場合の計画策定の考え方について、目標設定、対策内容、対象の絞り込み、実施体制といった観点で記載した。

3 計画的・効果的な捕獲対策

- 「計画的な捕獲に関する課題」への対応として位置付け記載した。
- 計画的な捕獲に向けて有効と考えられる年度別実施計画の活用方法として、特定計画と整合をとりながら、必要な施策や事業を短い周期で運用していく考え方について記載した。
- 目標達成に向けた効果的な捕獲について、捕獲場所の絞り込みの考え方と、捕獲強化地域の選定方法について記載した。

3. 新ガイドラインの「Ⅲ 計画立案編」について

- 現行ガイドラインの内容から大きな変更はしていないが、Ⅱ章の内容に関連する部分について、記載内容や情報の更新を行った。